

与謝野町公共施設白書

施設カテゴリー編



保育所・幼稚園

1 7 保育所・幼稚園

その1 施設の概要

保育所・幼稚園は、旧町で運営していた施設をそのまま利用しています。保育所は8園（加悦3、岩滝1、野田川4）、幼稚園は2園（岩滝1、野田川1）です。

このカテゴリーを説明する前提として以下の2点をお示しします。

1 幼保一体型の認定こども園の整備について

与謝野町では、今後の保育所・幼稚園の在り方として、現在10ある保育所・幼稚園を、幼保連携型の認定こども園3園に整備することで方針を固めています。旧町域に1ずつ整備することとしており、本白書では「岩滝地域は平成29年度、加悦地域は平成31年度、野田川地域は平成33年から運営すること（それぞれの前年度に施設整備）」、「岩滝地域は現岩滝幼稚園敷地に、加悦・野田川地域は新たな場所に認定こども園を建設すること」を想定しています。

2 保育所と幼稚園の違いについて

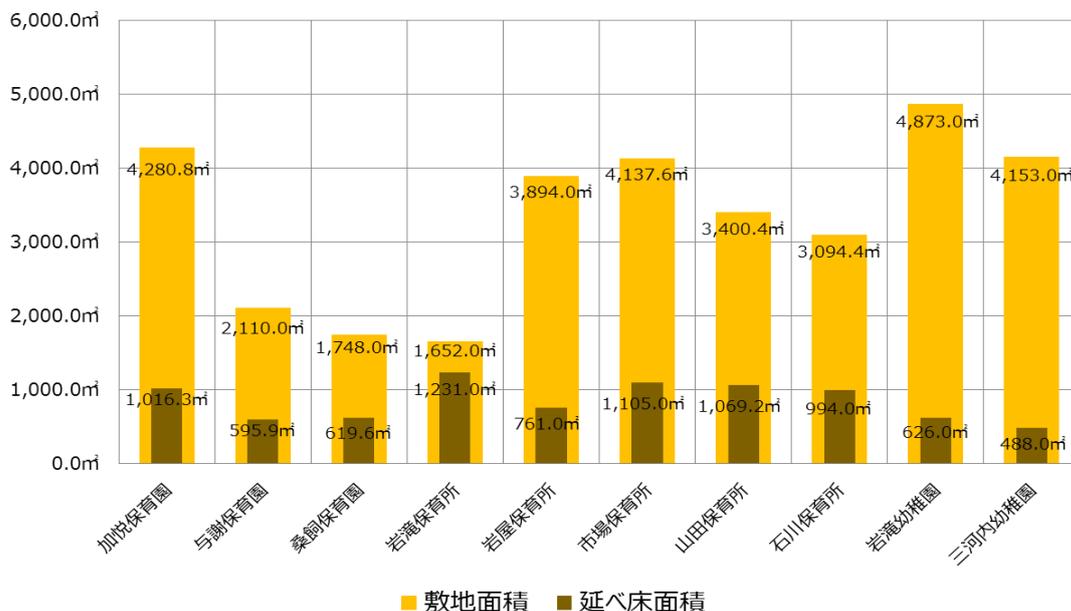
まず、幼稚園の根拠法令は学校教育法であり、「幼児の心身の発達を助長すること」を目的としています。これに対し、保育園（所）の根拠法令は児童福祉法であり、「日々保護者の委託を受けて、保育に欠けるその乳児又は幼児を保育すること」を目的としています。つまり幼稚園は「未就学児（3～5歳）の教育を行う場」、保育園は「保護者に代わって乳児又は幼児を保育する場」（日中、保護者の保育に欠ける状況）、ということになります。幼稚園の監督官庁は文部科学省であり、保育所は厚生労働省となります。

【保育所・幼稚園施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建築年	運営形態
		敷地	延床		
加悦保育園	加悦798番地	4,280.8㎡	1,016.3㎡	S54	直営
与謝保育園	滝467番地	2,110.0㎡	595.9㎡	S52	直営
桑飼保育園	明石2115番地	1,748.0㎡	619.6㎡	S62	直営
岩滝保育所	岩滝861番地2	1,652.0㎡	1,231.0㎡	S55	直営
岩屋保育所	岩屋205番地	3,894.0㎡	761.0㎡	S59	直営
市場保育所	幾地1329番地	4,137.6㎡	1,105.0㎡	S56	直営
山田保育所	下山田376番地	3,400.4㎡	1,069.2㎡	S54	直営
石川保育所	石川556番地	3,094.4㎡	994.0㎡	S58	直営
岩滝幼稚園	岩滝735番地	4,873.0㎡	626.0㎡	S41	直営
三河内幼稚園	三河内1947番地1	4,153.0㎡	488.0㎡	H3	直営
合計		33,343.2㎡	8,506.0㎡		

※加悦地域の保育所は「保育園」。その他の地域は「保育所」です。

【保育所・幼稚園の延床面積・敷地面積比較】



保育所・幼稚園の延床面積を比較すると、岩滝保育園が一番大きく、次いで市場保育園、山田保育園、加悦保育園となっています。一方で敷地面積を見ますと、岩滝幼稚園、加悦保育園、三河内幼稚園、市場保育園などの敷地面積が大きいことが分かります。敷地面積と延床面積の差で（イコールではないですが）園庭の広さなどもイメージできます。

【施設位置図】



概ね小学校区に1 保育所（三河内は幼稚園）が配置されています。岩滝地域は保育所・幼稚園ともに配置されています。

【写真でみる保育所・幼稚園】



加悦保育園



与謝保育園



桑飼保育園



岩滝保育所



岩屋保育所



市場保育所



山田保育所



石川保育所



岩滝幼稚園



三河内幼稚園

同じような時期に建設されましたが、それぞれ特徴のある外観です。

その2 施設の状況

① 老朽化の状況

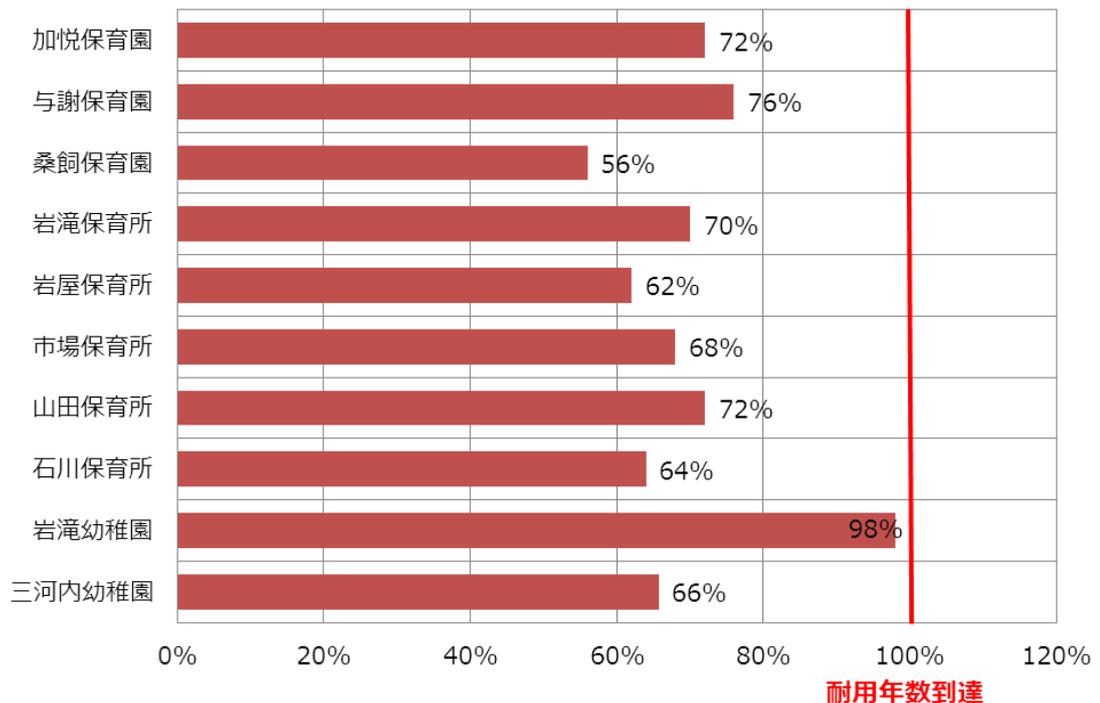
保育所幼稚園は最も古い建物で岩滝幼稚園の昭和41年度建設と非常に古く、老朽化率98%と来年度には耐用年数を迎える見込みで、耐震性にも不安があります。

【保育所・幼稚園施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
加悦保育園	鉄筋コンクリート造1階建	S54	H41	72%	有
与謝保育園	鉄筋コンクリート造1階建	S52	H39	76%	有
桑飼保育園	鉄筋コンクリート造1階建	S62	H49	56%	有
岩滝保育所	鉄筋コンクリート造1階建	S55	H42	70%	有
岩屋保育所	鉄筋コンクリート造1階建	S59	H46	62%	有
市場保育所	鉄筋コンクリート造1階建	S56	H43	68%	有
山田保育所	鉄筋コンクリート造1階建	S54	H41	72%	有
石川保育所	鉄筋コンクリート造1階建	S58	H45	64%	有
岩滝幼稚園	鉄筋コンクリート造1階建	S41	H28	98%	無
三河内幼稚園	木造1階建	H4	H39	66%	有

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%を超えると耐用年数超過となります。

※耐用年数は鉄筋コンクリート造は50年、木造は35年を想定しています。



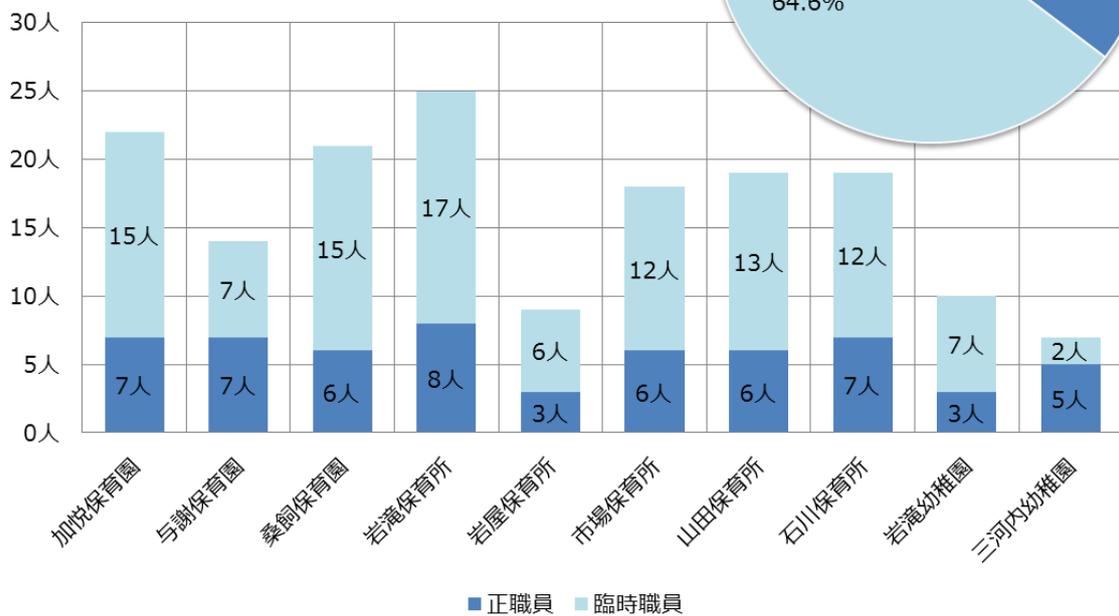
② 職員の配置とクラスの配置状況

保育所幼稚園の配置人員は以下のとおりです。

【保育所幼稚園配置人員一覧（平成26年度）】

施設名	保育士		調理員/労務員		早朝・時間外	計
	正職員	臨時職員	正職員	臨時職員	パート	
加悦保育園	6人	11人	1人	2人	2人	22人
与謝保育園	6人	3人	1人	1人	3人	14人
桑飼保育園	5人	10人	1人	2人	3人	21人
岩滝保育所	7人	11人	1人	2人	4人	25人
岩屋保育所	3人	4人	0人	1人	1人	9人
市場保育所	5人	7人	1人	2人	3人	18人
山田保育所	5人	8人	1人	2人	3人	19人
石川保育所	6人	9人	1人	2人	1人	19人
岩滝幼稚園	3人	4人	0人	3人	-	10人
三河内幼稚園	4人	2人	1人	-	-	7人
合計	50人	69人	8人	17人	20人	164人

【保育所・幼稚園職員配置状況グラフ】



保育所幼稚園の配置クラス数は以下のとおりです。

【保育所・幼稚園配置クラス数一覧（平成26年度）】

施設名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
加悦保育園		1	1	2	1	1	6
与謝保育園		1		1	1	1	4
桑飼保育園	1		1	1	1	1	5
岩滝保育所	1		2	2	1	1	7
岩屋保育所		1		1	1	1	4
市場保育所		1	1	1	1	1	5
山田保育所	1	1	1	1	1	1	6
石川保育所		1	1	1	1	1	5
岩滝幼稚園				1	1	2	4
三河内幼稚園				1	1	1	3

クラス数は正職員の保育士数とほぼ一致しますが、園長を除けば各クラスに正職員の保育士が配置されているわけではなく、臨時職員もクラス担当をしている現状です。

③ バリアフリー化の状況

保育所・幼稚園のバリアフリー化状況は以下のとおりです。特にバリアフリー化に対応しているというわけではありません。

【保育所・幼稚園バリアフリー化状況】

施設名	多目的トイレ	スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	エレベーター	その他
加悦保育園	-	○	-	-	-	-	
与謝保育園	-	-	-	-	-	-	
桑飼保育園	-	-	-	-	-	-	
岩滝保育所	-	○	-	-	-	-	
岩屋保育所	-	-	-	-	-	-	
市場保育所	-	○	-	-	-	-	
山田保育所	-	-	-	-	-	-	
石川保育所	-	-	-	-	-	-	
岩滝幼稚園	-	-	-	-	-	-	
三河内幼稚園	-	○	-	-	-	-	

※「○…設置済」、「- …未設置」を表しています。

④ 防災に関する状況

全施設が避難所指定されています（一部、部分指定）。また、石川保育所が浸水想定区域内に位置しています。与謝保育園、岩屋保育所、山田保育所、岩滝幼稚園が急傾斜地の崩壊警戒区域内に位置しており、山田保育所は特別警戒区域となっています。加悦保育園、岩屋保育所、三河内幼稚園が土石流の警戒区域内に位置しています。

【保育所・幼稚園防災状況一覧】

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
加悦保育園	○	○	-	-	警戒区域
与謝保育園	○	○	-	警戒区域	-
桑飼保育園	○	○	-	-	-
岩滝保育所	○	○	-	-	-
岩屋保育所	-	○	-	警戒区域	警戒区域
市場保育所	○	○	-	-	-
山田保育所	-	○	-	特別警戒区域	-
石川保育所	○	○	0.5～3.0m未満	-	-
岩滝幼稚園	○		-	警戒区域	-
三河内幼稚園	○	○	-	-	警戒区域

④ 保育室数

各施設とも一定数の保育室を保有していますが、岩滝保育所にのみ調乳室があります。

【保育所・幼稚園建物状況一覧】

施設名	乳児室	ほふく室	保育室	遊戯室	医務室 (保健室)	調理室	トイレ	事務室 (保健室)	調乳室
加悦保育園	2	-	6	1	1	1	6	1	-
与謝保育園	1	-	3	1	1	1	4	1	-
桑飼保育園	2	-	3	1	1	1	4	1	-
岩滝保育所	4	1	8	1	1	1	6	1	1
岩屋保育所	-	1	4	1	1	1	2	1	-
市場保育所	2	-	6	1	1	1	4	1	-
山田保育所	1	1	6	1	1	1	4	1	-
石川保育所	1	-	6	1	1	1	6	1	-
岩滝幼稚園	-	-	3	1	1	1	2	1	-
三河内幼稚園	-	-	3	1	1	1	2	1	-

その3 施設の利用状況

保育所・幼稚園の平成27年度の利用内容は下のとおりです。

■保育所

1 保育時間

早朝保育 午前7時30分～午前8時（与謝・岩滝・石川のみ）

通常保育 午前8時～午後4時

時間外保育 午後4時～午後7時（保育所ごとに終了時間が異なります）

2 低年齢児保育

3園で10ヶ月以上からの受け入れを行っています（桑飼・岩滝・山田のみ）

■幼稚園

1 教育時間

午前9時～午後2時

2 休日

日曜日・土曜日・祝日のほかに学年始休業日（4/1～4/6）、夏期休業（7/21～8/31）、冬期休業（12/25～1/7）、学年末休業（3/25～3/31）があります。

3 預かり保育

平日午後2時～午後6時、長期休業日は午前9時～午後6時で預かり保育を実施しています。

まとめると以下の表のとおりとなります。

【保育時間等早見表】

施設名	時間													開始年齢			
	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時				
加悦保育園																	1.5歳～
与謝保育園																	1.5歳～
桑飼保育園																	10ヶ月～
岩滝保育所																	10ヶ月～
岩屋保育所																	1歳～
市場保育所																	1.5歳～
山田保育所																	10ヶ月～
石川保育所																	1歳～

施設名	時間													開始年齢			
	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時				
岩滝幼稚園																	3歳～
三河内幼稚園																	3歳～

通常
 早朝
 時間外・預かり保育

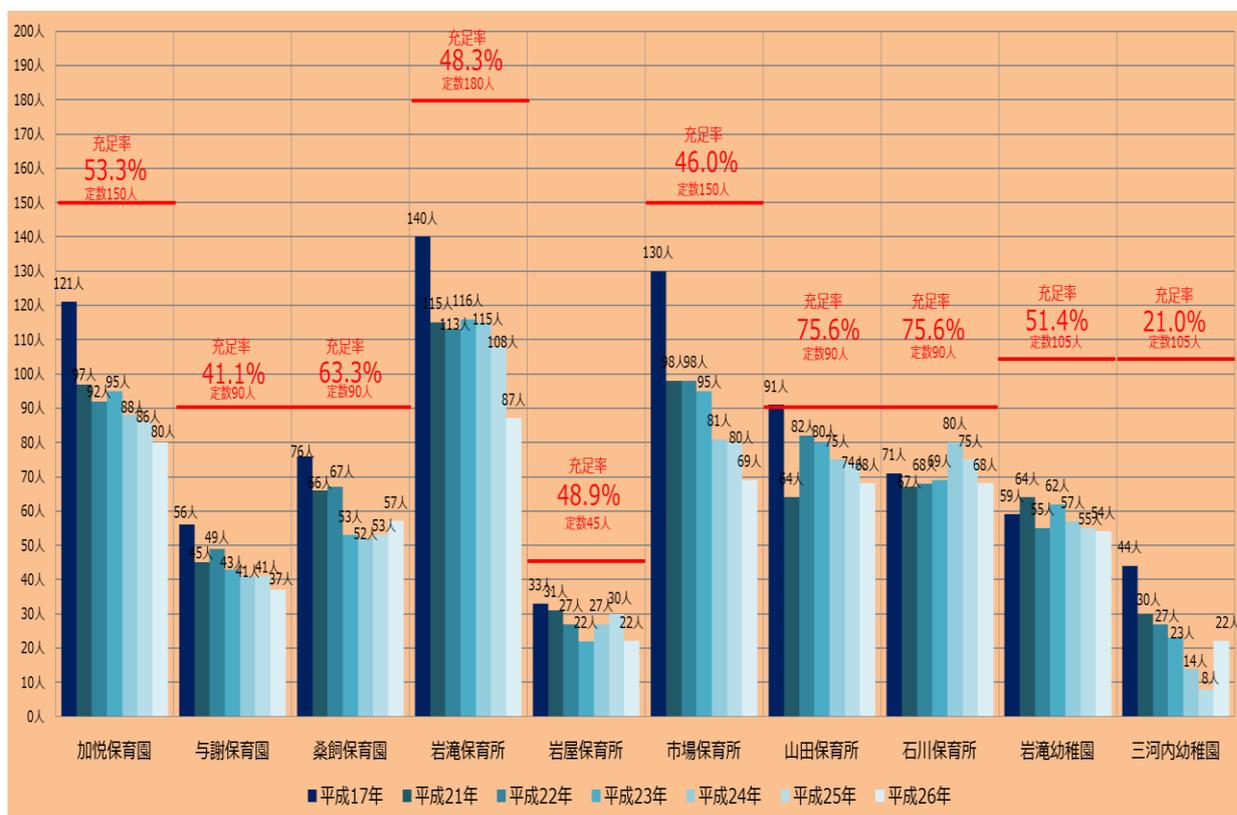
保育所・幼稚園には定数があります。下の図のオレンジ色に網掛けした部分が定数です。そして合併時の

平成 17 年度と平成 21～25 年度の各保育所・幼稚園に通う園児数（利用者数）の推移は下の図のとおりです。

【保育所・幼稚園利用者数推移表】

施設名	定数	平成17年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
加悦保育園	150人	121人	97人	92人	95人	88人	86人	80人
与謝保育園	90人	56人	45人	49人	43人	41人	41人	37人
桑飼保育園	90人	76人	66人	67人	53人	52人	53人	57人
岩滝保育所	180人	140人	115人	113人	116人	115人	108人	87人
岩屋保育所	45人	33人	31人	27人	22人	27人	30人	22人
市場保育所	150人	130人	98人	98人	95人	81人	80人	69人
山田保育所	90人	91人	64人	82人	80人	75人	74人	68人
石川保育所	90人	71人	67人	68人	69人	80人	75人	68人
岩滝幼稚園	105人	59人	64人	55人	62人	57人	55人	54人
三河内幼稚園	105人	44人	30人	27人	23人	14人	8人	22人
合計	1,095人	821人	677人	678人	658人	630人	610人	564人

【保育所・幼稚園利用者数推移及び定数に対する充足率を示したグラフ（充足率は H26 児童数で算出）】

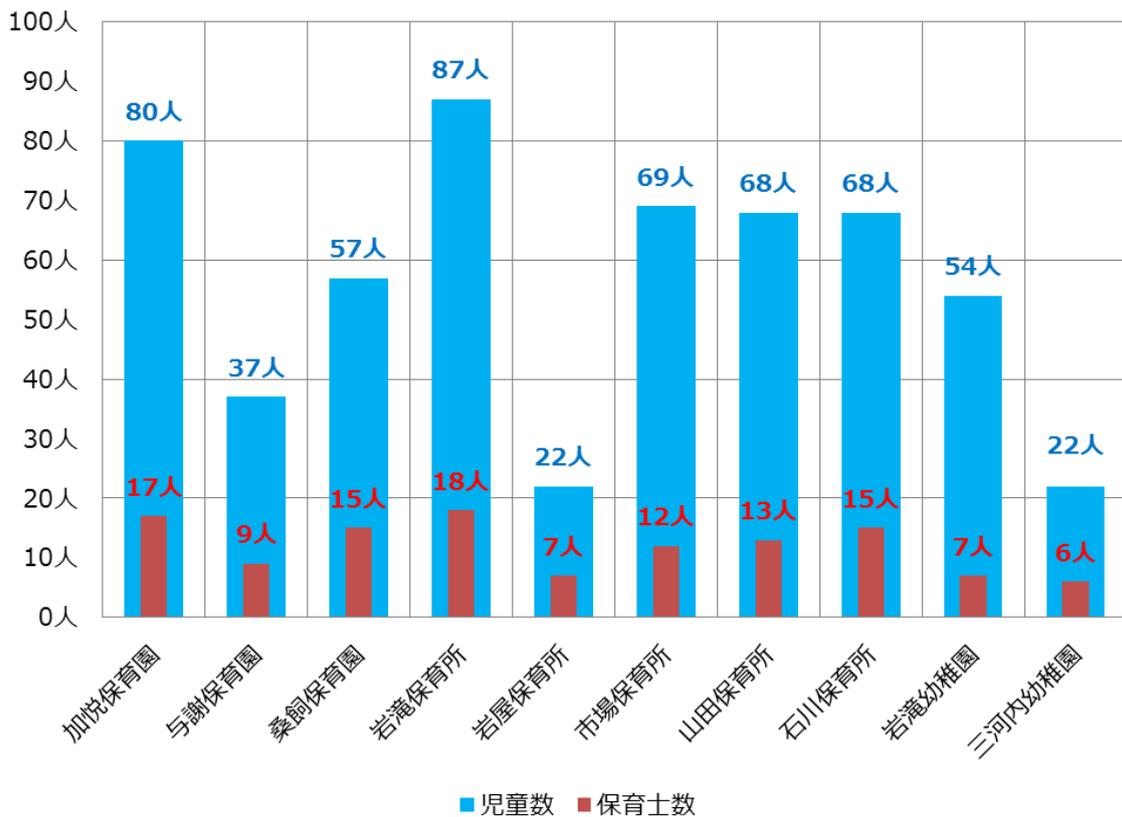


このグラフは各保育所・幼稚園の園児数の推移と定員に対する充足率（平成 26 年度園児数で算出）を示したグラフです。どの園も平成 17 年度より園児数が減少しています。ここ 5 年ではその園も横ばいの推移ですが、三河内幼稚園の園児の減少が顕著でしたが、3 歳児を受け入れたことにより平成 26 年度では 22 人に増えています。

一方で定数に対する充足数ですが、定数を満たしている園はありません。70%を超えている園が山田・石川保育所の 2 園で、その他は概ね 40～60%です。大半の園が充足数を大きく下回っている状況であり、認定こども園への統合は合理的であると言えます。

また、児童数と保育士数を比較した場合、以下のグラフのようになります。

【参考：児童数と保育士数比較グラフ（保育士は正職員+臨時職員）】



その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

現在の保育所・幼稚園施設に係る年間の管理・運営コストは以下のとおりです。

【保育所・幼稚園施設管理・運営コスト一覧】

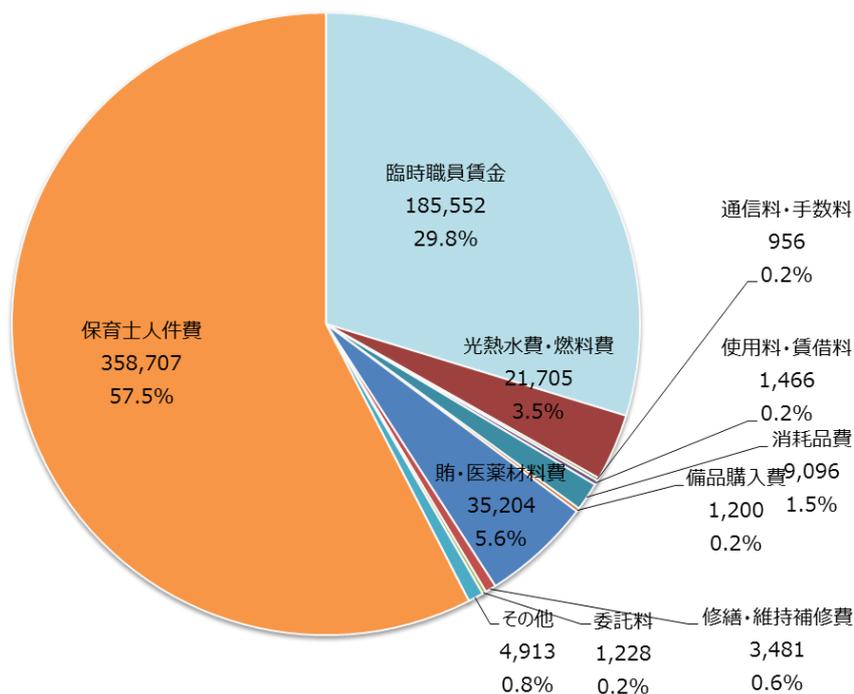
(単位：千円)

項目	加悦保育園	与謝保育園	桑飼保育園	岩滝保育所
臨時職員賃金	33,220	14,613	24,452	30,128
光熱水費・燃料費	3,485	2,051	2,269	3,413
通信料・手数料	138	51	73	97
使用料・賃借料	48	7	11	336
消耗品費	952	696	1,471	1,433
備品購入費	176	0	0	79
賄・医薬材料費	5,345	2,788	3,112	6,881
修繕・維持補修費	481	267	709	255
委託料	313	237	104	83
指定管理料	0	0	0	0
その他	631	532	556	679
合計	44,789	21,242	32,757	43,384
参考：保育士人件費	36,955	29,573	41,591	63,059
項目	岩屋保育所	市場保育所	山田保育所	石川保育所
臨時職員賃金	13,791	13,654	17,663	22,033
光熱水費・燃料費	1,739	2,344	2,195	2,333
通信料・手数料	46	73	61	73
使用料・賃借料	4	470	8	35
消耗品費	590	863	1,130	1,165
備品購入費	0	90	0	72
賄・医薬材料費	2,097	4,945	4,472	5,320
修繕・維持補修費	145	747	105	401
委託料	90	45	40	0
指定管理料	0	0	0	0
その他	512	606	599	613
合計	19,014	23,837	26,273	32,045
参考：保育士人件費	18,020	39,350	36,613	37,403
項目	岩滝幼稚園	三河内幼稚園	合計	
臨時職員賃金	13,546	2,452	185,552	保育所・幼稚園の管理・運営コストは平成25年度で2億6400万円です。これに保育士の人件費を加えると約6億2,351万円になります。
光熱水費・燃料費	1,337	539	21,705	
通信料・手数料	257	87	956	
使用料・賃借料	328	219	1,466	
消耗品費	550	246	9,096	
備品購入費	416	367	1,200	
賄・医薬材料費	163	81	35,204	
修繕・維持補修費	289	82	3,481	
委託料	160	156	1,228	
指定管理料	0	0	0	
その他	50	135	4,913	
合計	17,096	4,364	264,801	
参考：保育士人件費	27,885	28,258	358,707	

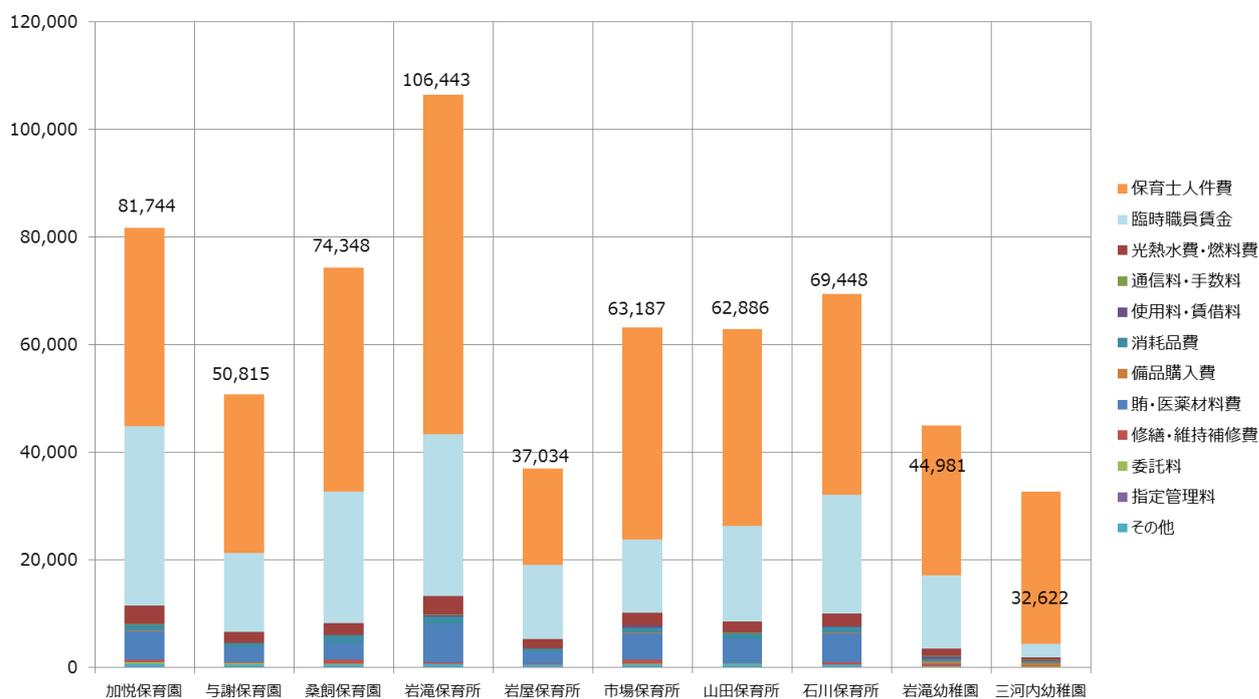
※平成25年度の実績額です

合計 623,508

【保育所・幼稚園管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】

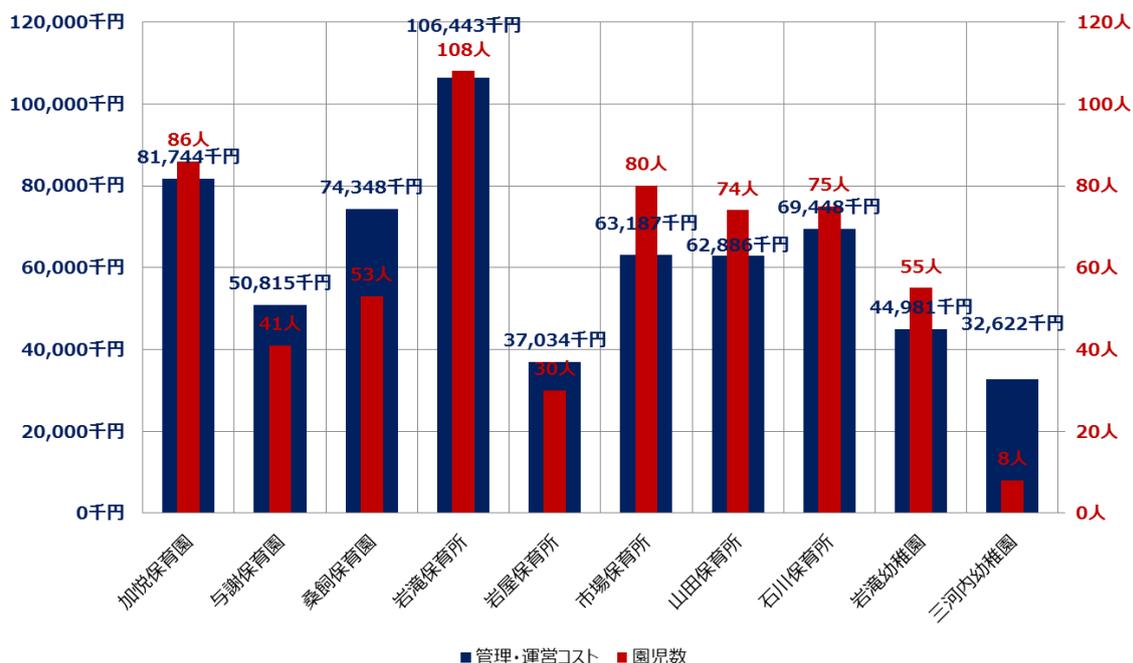


【保育所・幼稚園管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



保育所・幼稚園の管理・運営コストの内訳を見ると、やはり保育士の人件費（臨時職員賃金含む）が約87%と大半を占めています。子育て世代の共働きが増える中で保育ニーズも多様化しており、それに対応するために必要なコストとなっています。

【保育所・幼稚園管理・運営コストと園児数比較グラフ（平成 25 年度の園児数で算出）】



【保育所・幼稚園の園児一人当たりの管理・運営コスト（平成 25 年度の園児数で算出）】



保育士人件費がコストの大半を占めていることから、当然園児数の多い保育所・幼稚園のコストが高くなっています。一方で、園児一人当たりのコストを見てみると、全体で 100 万円程度かかっていることとなります。どの園も同水準の保育・教育を行っていることを考えれば、園児数の少ない園ほど園児一人当たりのコストが高くなります。※三河内幼稚園は平成 26 年度に園児数が 22 人に増えていますので、他との乖離はここまで大きくならない見込みです。

【参考：各保育所・幼稚園の保育料・幼稚園使用料一覧】（単位：千円）

項目	加悦保育園	与謝保育園	桑飼保育園	岩滝保育所	岩屋保育所
保育料・幼稚園使用料	17,073	10,589	13,798	27,084	5,822
	市場保育所	山田保育所	石川保育所	岩滝幼稚園	三河内幼稚園
	18,428	14,813	15,860	4,604	588
	合計				128,659

その他の財源としては、国庫補助金や、税収・交付税などの一般財源等です。

② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆保育所・幼稚園を統合する形で3つの認定こども園を新設

岩滝認定こども園・・・平成28年度建設

加悦認定こども園・・・平成30年度建設

野田川認定こども園・・・平成32年度建設

【コストの考え方】

認定こども園建設コストは近隣の認定こども園の建設費を参考に1園につき6億円としました。

○解体コスト・・・3万円/m²

算出したコストは以下のとおりです。

【参考：保育所・幼稚園施設整備等コスト一覧】

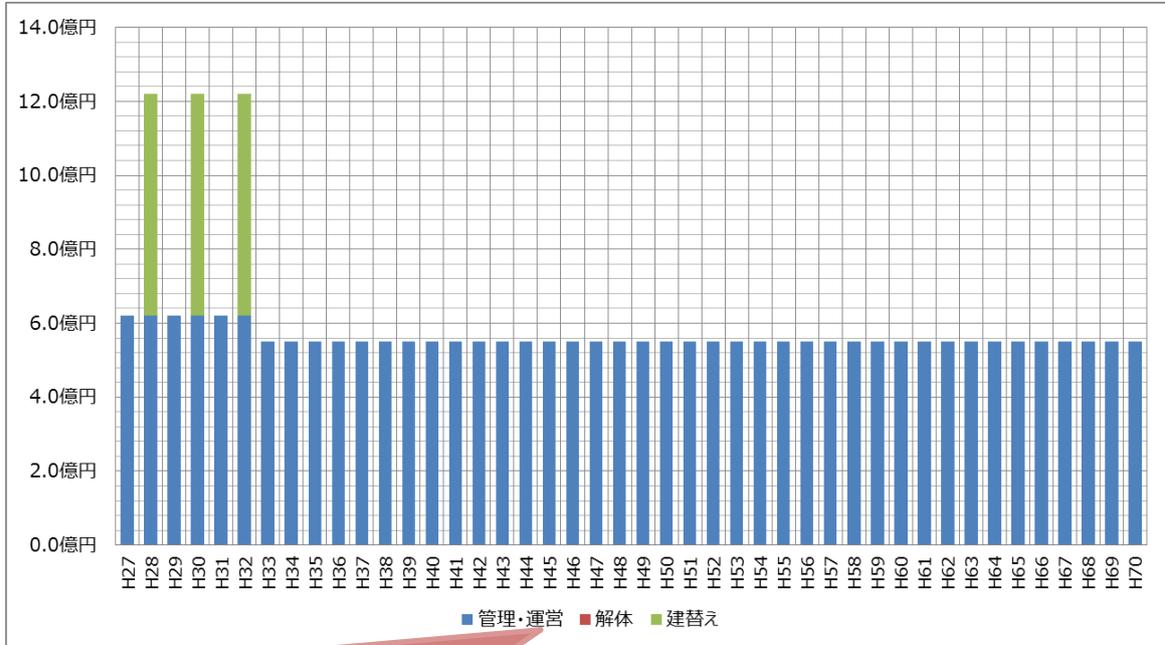
（単位：千円）

施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体コスト含む)	実施年度	コスト
加悦保育園	S54	50年	132,920	-	-	参考	30,489
与謝保育園	S52	50年	77,748	-	-	参考	17,876
桑飼保育園	S62	50年	114,153	-	-	参考	18,587
岩滝保育所	S55	50年	190,000	-	-	参考	36,930
岩屋保育所	S59	50年	97,300	-	-	参考	22,830
市場保育所	S56	50年	170,000	-	-	参考	33,150
山田保育所	S54	50年	110,855	-	-	参考	32,076
石川保育所	S58	50年	175,175	-	-	参考	29,820
岩滝幼稚園	S41	47年	26,617	-	-	参考	18,780
三河内幼稚園	H3	22年	115,154	-	-	参考	14,640
加悦認定こども園	-	-	-	H30	600,000	-	-
岩滝認定こども園	-	-	-	H28	600,000	-	-
野田川認定こども園	-	-	-	H32	600,000	-	-
				合計	1,800,000		255,178

※解体コストは参考です。

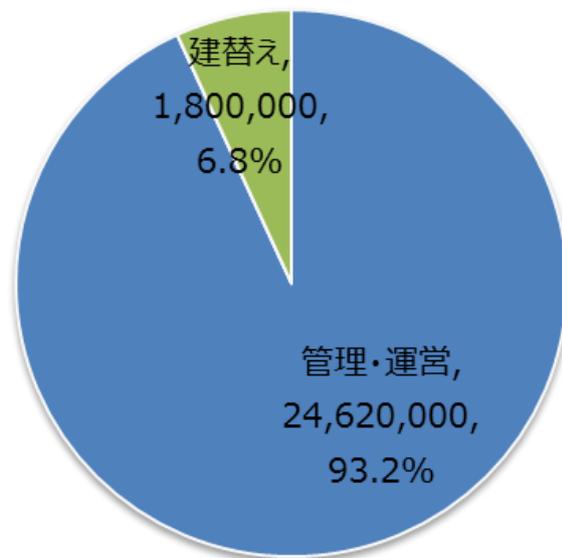
管理・運営コスト（平成 25 年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。
建替えコストより毎年の管理・運営費が大きくなります。

【保育所・幼稚園施設将来コスト推移表】



コスト総額約 264.2 億円（整備 18 億円、解体 0 億円、管理・運営 246.2 億円）

【保育所・幼稚園将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



参考に現在の保育所・幼稚園をそのまま継続した場合の将来コストも試算しました。

【参考：保育所・幼稚園施設整備等コスト一覧（現状継続）】

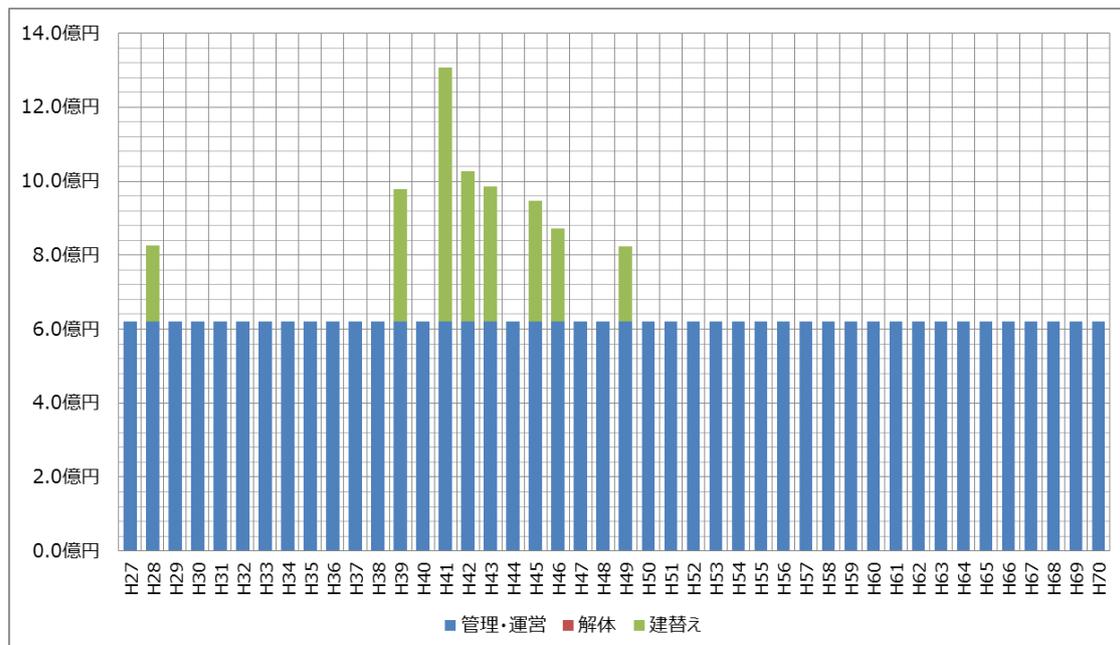
（単位：千円）

施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体コスト含む)	実施年度	コスト
加悦保育園	S54	50年	132,920	H41	335,376	参考	30,489
与謝保育園	S52	50年	77,748	H39	196,640	参考	17,876
桑飼保育園	S62	50年	114,153	H49	204,452	参考	18,587
岩滝保育所	S55	50年	190,000	H42	406,230	参考	36,930
岩屋保育所	S59	50年	97,300	H46	251,130	参考	22,830
市場保育所	S56	50年	170,000	H43	364,650	参考	33,150
山田保育所	S54	50年	110,855	H41	352,836	参考	32,076
石川保育所	S58	50年	175,175	H45	328,020	参考	29,820
岩滝幼稚園	S41	50年	26,617	H28	206,580	参考	18,780
三河内幼稚園	H4	35年	115,154	H38	161,040	参考	14,640
				合計	2,806,954	合計	255,178

※解体コストは参考です。

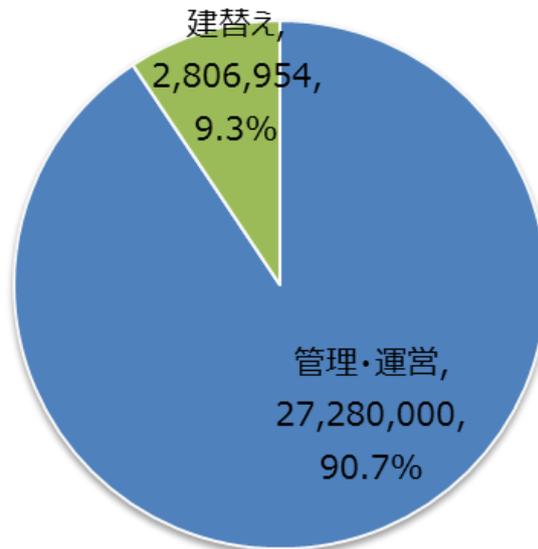
管理・運営コストも含めた将来コストの推移は以下のとおりです。建替えコストより毎年の管理・運営費が大きくなります。

【参考：保育所・幼稚園施設将来コスト推移表（現状継続）】



コスト総額約 300.9 億円（整備 28.1 億円、解体 0 億円、管理・運営 272.8 億円）

【保育所・幼稚園将来コスト内訳グラフ（現状維持 単位：千円）】



その5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

各保育所・幼稚園の定員に対しての実員数を表す充足率は、全体的に平成 17 年と比べ大きく減少しており、それ以降も年々緩やかに減少しています。全体的に子どもの数が減っている状況なので当然と言えますが、その分子も達の保育スペースの確保はできていると言えます。

●建物状況

ほとんどすべての保育所・幼稚園が老朽化率 60%を越えている（鉄筋コンクリート造なら 30 年経過）状況でカテゴリー全体でも老朽化が進んでいます。ややばらつきがあるものの、概ね昭和 50 年代に建設されたものが多く、あと 20 年ほどで大半が耐用年数超過となる見込みです。特に岩滝幼稚園は古く来年度には耐用年数が経過します。

●防災状況

全ての保育所・幼稚園が避難所に指定されています。

●コスト状況

施設全体の管理・運営コストは約 6 億円で、保育料・幼稚園使用料、国庫補助金などを充て、残りを税収や交付税などの一般財源でまかっています。

施設数も多い分、他のカテゴリーと比べてもコストが大きい現状です。認定こども園への統合で大きくコストを集約することが期待されます（本白書の試算では物件費等が約 7,000 万円減少になると見込んでいます）。

また、整備コストは、認定こども園の整備コストを試算しており 3 園総額で約 18 億円かかる見込みです。今回参考として現行の 10 園全てを継続した場合の整備コストも計上しており、これが約 28 億円となっています。

●現状のまとめと今後の展望

先述のように、保育所・幼稚園の運営には特定の財源があるものの多額のコストがかかります。そのため幼保一体型の認定こども園に集約（10 園⇒3 園）することは合理的であると考えます。一方で認定こども園の整備にも多額の費用がかかることが想定されます。特に加悦地域、野田川地域は場所選定もこれからという状況の中、用地買収にもコストがかかることを考えれば、認定こども園に必要な規模を検証した上で、現存する町所有の公共施設を整理してそこに建設する方法も検討すべきであると考えます。

また、新たな認定こども園の設置となれば、将来的には現状の保育所幼稚園は空き施設となっていくことが考えられます。学童保育施設などの児童福祉施設として今後の活用も考えられるほか地域のコミュニティー施設としての活用方法も十分検討できます。

その6 参考事項

利用しなくなった保育所を他の用途で活用した例が、お隣の京丹後市にありましたので、どのような利点があるか、どのような工事が必要になるか、お話をお伺いしました。

【保育所の改修事例】

① 旧口大野保育所（学童保育への転用）

■改修費について

改修費用は 50 万円。

■改修内容

保育所から学童保育の転用に伴い、トイレ改修を行ったのみ。10 個あったトイレのうち 5 個分を大人用に改修（小学校高学年が利用できるように）。

② 小規模多機能型居宅介護事業所「あけぼの荘」

■施設概要

統合に伴い廃園となっていた旧常吉保育所を京丹後市から無償借用を受け（平成 18 年～）、小規模多機能型居宅介護事業所へ改修し、平成 19 年 1 月 1 日に開設。

※建築年次・・・昭和 55 年建築

■改修費について

当初 3,700 万円をかけて改修した。補助金はなし。

■改修内容について

調理室を職員休憩室に改修。

玄関に車止めのため屋根を設置。

天井裏に防火壁設置、天井・壁の補修（床は当初のまま）。

風呂・トイレ（一般用・身障用）・食堂改修。

スプリンクラー工事（平成元年、京丹後市の補助が出た）

■保育園の利活用について

廊下が広く長いため、歩行訓練に適している。

もともと運動場だった場所を駐車場にしたが、とても広い面積が確保できた。

都市部と比較すると、とても広い面積が確保できた。

幹線道路から離れており、とても静かで良い。

③「障害児（者）多機能型生活支援センターろむ」

■施設概要

廃園後3年間利用されていなかった奥大野保育園を京丹後市から無償借用を受け（平成18年2月～）、障害福祉サービス事業所へ改修し、平成18年11月1日に開設。

※建築年次・・・昭和47建築、昭和56年増築。

さらに、4年前に隣接の奥大野公民館も市から無償借用を受け活用している。

■改修費について

当初総額2,200万円の負担。

内訳・・・日本財団補助金1,500万円（改修1,200万円、備品300万円）と実費700万円。

京丹後市からの補助はなし。

■改修内容

各教室や部屋を実施事業に合わせて改修（生活介護事業2部屋、生活訓練事業1部屋）。

事務室部分を広げ一部改修。

遊戯場所は食堂に、厨房はそのまま活用（一部設備入替）。

壁は職員の自前で随時塗り直し。天井は当初のまま。

ガラスは、安全対策のため外部は強化ガラス、内部は樹脂ガラスに改修。

手すりの設置、スロープ設置、バリアフリー化（京都府福祉のまちづくり条例）。

手洗い場の高さを上げる。（成人向け）

一部屋に床暖房を整備、隣接に和室設置。車いす専用部屋として、また短期入所用でも活用している。

物置を女子トイレ・身障用トイレに改修。

こどもトイレを男子トイレ・身障用トイレ・風呂場に改修。

■保育園の利活用について

もともとの用途としてこどもが使うものであり、安全対策や使いやすさといった配慮が当初から一定できている（廊下の幅が広い、日照条件が良いなど）。

福祉施設への利活用に係る改修費が、一定抑えることができたと考えられる。

【改修後の施設内部の様子】

